

令和4年度
事業計画

社会福祉法人 東桜会

《社会福祉法人東桜会の理念等》

〔法人の目的〕

私たちは、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として事業を行います。

〔施設運営理念〕

法人の目的を達成するため、公平で公正な開かれた施設運営を永续し、地域の拠点施設となるように努めるとともに地域福祉の向上に資するよう努めます。

〔施設運営方針〕

利用者の多様なニーズに応えられる職員を育成し、利用者が、生きがいを持ち明るく快適な生活ができる住環境の整備に努めます。

〔サービス提供理念〕

利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重した質の高いサービスを提供し、利用者の生活の質の向上を目指すとともに、利用者の自立を目指し、利用者と共に生き、利用者の回復を目指します。

〔サービス提供方針〕

サービスの利用を希望する人たちが、利用者自らが受けられるサービスを選択し決定できる環境を作るとともに、利用者の残存能力を発見し、引き出し、活用ができるような環境を作ることに努めます。

《社会福祉法人東桜会》

〔1〕基本方針

1. 法人・施設の中・長期計画の策定に取り掛かる。
2. 法人の理念、施設運営方針等について再確認し、表現方法等を検討する。
3. 働きやすい職場環境を目指し、職員の採用、定着に努める。
4. 地域に存する社会福祉法人として、地域の様々な団体組織・人々と連携して地域に貢献する。

〔2〕経営施設及び事業の種類

1. 指定を受けた介護保険事業（介護予防・日常生活支援総合事業を含む）を経営する
 - (1)介護老人福祉施設 麻機園
 - (2)短期入所生活介護事業 麻機園
 - (3)地域密着型通所介護事業 麻機園デイサービスセンター
 - (4)訪問介護事業 麻機園ヘルパーステーション
 - (5)居宅介護支援事業 麻機園ケアプランサービス
2. 社会福祉事業として次の事業を行う
 - (1)軽費老人ホーム ケアハウス桜花
3. 静岡市から委託を受けて次の事業を行う
 - (1)要支援、要介護認定の訪問調査（麻機園ケアプランサービス）
 - (2)静岡市高齢者一時保護施設確保事業（短期入所麻機園）
4. 地域包括支援センターから委託を受けて次の事業を行う
 - (1)介護予防ケアマネジメント業務

〔3〕地域社会に貢献する取組み・地域交流等

地域連携担当職員を配置し、法人が地域社会に貢献する取組みの業務を担わせる。新型コロナウイルス感染症に充分留意し、施設を開放した地域住民へのサービスや、地域の団体組織・人々と連携して地域に貢献し、福祉の向上を目指す。また、地域の民生委員や地区社協、放課後こども教室実行委員会等と連携するなどして、地域住民と子どもたちの活動の機会が持てるようにサポートする。

〔4〕監事監査、理事会、評議員会等の開催予定

- | | | |
|------------|-----|---------------------------------------|
| ①監事監査 | 5月 | 令和3年度事務事業及び決算の審査 |
| ②第1回理事会 | 5月 | 令和3年度事業報告、決算及び定時評議員会予定、次期役員・評議員候補者の選定 |
| ③定時評議員会 | 6月 | 令和3年度決算認定、次期役員の選任 |
| ④監事定期監査 | 10月 | 令和4年度定期監査 |
| ⑤第2回理事会 | 10月 | 令和4年度補正予算、事務事業の報告等 |
| ⑥第1回臨時評議員会 | 10月 | 令和4年度補正予算承認 ※補正予算がある場合 |

- ⑦第3回理事会 12月 事務事業報告等
- ⑧第4回理事会 3月 令和4年度補正予算及び令和5年度事業計画及び予算など
- ⑨第2回臨時評議員会 3月 令和4年度補正予算及び令和5年度事業計画及び予算承認

※予算又は事業計画等に係る議題のあるときには、臨時に理事会、評議員会を開催する。

〔5〕建物・設備の修繕・改修等の予定

麻機園及びケアハウス桜花の建物本体及び付属設備、設備・備品等の経年劣化の著しい箇所について大規模な修繕又は改修等を計画・予定するとともに、職員の業務軽減に資する設備・用具等の導入を検討する。

1. 特別養護老人ホーム麻機園

- ①非常用自家発電設備設置
- ②ダムウエータ改修修繕
- ③居室網戸、外構フェンス等の改修取替
- ④業務の効率化・業務負担の軽減化の為、利用者見守り機器・ICTの導入
- ⑤空調設備更新修繕等
- ⑥電話設備更新
- ⑦感染症対策に係る設備等の改善・導入

2. ケアハウス桜花

- ①建物周囲地盤沈下への対応
- ②電話設備・課金装置、電気使用量等集中監視装置更新
- ③業務の効率化・業務負担軽減化に向けたICTの導入
- ④感染症対策に係る設備等の改善・導入

《特別養護老人ホーム麻機園》

〔1〕基本方針

- 1. 利用者ご家族の要望に的確に応えられるよう、各職種間の連携を密にする。
- 2. 利用者への生活援助者としてふさわしい職員になるよう資質の向上に務める。
- 3. 導入した介護記録システムに習熟し、情報共有等の効率化を図る。
- 4. 介護保険制度の定める条件を遵守して事業を行う。

〔2〕運営

- 1. 入所率を98%以上に保つ。
- 2. 家族説明会を開催する。開催できない場合は、定期報告時に併せて利用者の様子等の情報を提供する。
- 3. 介護マニュアルを見直す。
- 4. 介護改革プロジェクトチームを編成し、介護の考え方、方法、器具、システム等について、多様な情報を収集し業務に反映する。

〔3〕利用者処遇

1. 入所者がその人らしく安心して暮らせるような環境創りに努め、多職種協同を推進する。
2. 感染症対策を押し進める。
3. 入所者の健康管理の年間計画を立案し実施する。
4. 入所者の残存機能の維持・向上を目指し、安全な生活が送れるよう楽しんで生活してもらえ
るような機能訓練を行う。
5. 旬の食材を取り入れる献立や、個々にあった栄養ケア計画書を作成すると共に、災害時の献
立・給食体制を検討する。

〔4〕会議・研修

1. 定期的に会議を開催する
 - (1)全体
 - ①職員会議 ②部門連絡会 ③在宅利用連絡会 ④厚生委員会 ⑤研修委員会
 - ⑥広報委員会
 - (2)麻機園
 - ①優先入所検討委員会 ②介護職会議 ③リーダー会議 ④パート会議
 - ⑥行事担当者会議 ⑦給食会議 ⑧安全委員会 ⑨衛生委員会 ⑩事故防止委員会
 - ⑪感染症対策委員会 ⑫身体拘束廃止委員会 ⑬褥瘡予防委員会 ⑭食事委員会
 - ⑮排泄委員会 ⑯入浴委員会 ⑰事故検討委員会 ⑱サービス検討会
2. 在宅部門を含めた全体会議を主催し職員相互の連携を計るとともに、定期的に部門毎、職種
毎の会議を開く。
3. 委員会や担当者会議を開催し、利用者処遇の向上や、効率的な介護体制作りに努める。
4. 研修会、研究会、講習会等へWebによる参加の機会を増やし、資質の向上に努めるとともに、
出席した職員の報告会を行う。

〔5〕防災対策・感染症対策

1. 近年多発する土砂災害や水害等に対する備えを充実するために、自然災害に対する職員の防
災知識を向上させると共に訓練を行い、避難方法等の検討、必要な設備・備品等の整備を行
う。
2. 地震、火災時に備え、職員の防災に対する知識を向上させると共に、定期的に訓練を行い、
設備の使用法の修得、避難誘導技術の向上を目指す。
3. BCP、災害時マニュアル等の見直し及び体制を整備する。
4. 新型コロナウイルス感染症に関する様々な情報を収集するとともに、職員の感染症対策に
対する知識を向上させる研修・実習を行い、感染症対策用品や備品設備の整備を押し進める。
5. 感染症に関連する通知や制度の変更に関する情報の収集に努め、施設事業の経営に反映する。

《ケアハウス桜花》

〔1〕基本方針

安心して楽しく生きがいのある生活が送れるよう支援する。

〔2〕運営

1. 安定した入居率向上を目指し、居宅介護支援事業所をはじめ、地域包括支援センター、医療機関等の地域連携室等へ訪問し施設の紹介、空き状況など情報提供と営業活動を行う。
2. 地域連携担当と協働し、町内会、民生委員など地域に施設を知ってもらう機会を設ける。
3. 高齢者の特性に配慮した環境を整備する。

〔3〕入居者処遇

1. 健康で可能な限り自立した生活の場づくりをめざし、入居者の健康診断・予防接種などの機会を提供し、健康状態の情報を得る。
2. 服薬内容の把握、かかりつけ医との連携、適切な助言をして疾病予防に努める。
3. 必要に応じた介護保険サービスや施設サービスを提案し円滑に利用できるように支援する。
4. 感染症、疾病の早期発見と予防に努める。
5. 残存機能の維持と余暇活動の援助を行う。
6. 「にじサロン」を継続的に開催し、体操や脳トレなどで機能低下を予防する。

〔4〕会議・研修

1. 在宅部門と連携を計り、入居者に関するサービス担当者会議等に参加する。
2. 職員の資質向上のため外部研修に参加する。
3. 入居者処遇、行事会議、給食等に関して会議を開催する。
4. 会議の種類 ①桜花会議 ②入居者処遇会議 ③給食会議

〔5〕防災対策・感染症対策

1. 地震、火災など災害に備え、職員の防災知識、技術の向上をめざす。年2回、夜間発生の大規模地震および火災を想定した避難訓練を実施する。
2. 入居者向けに土砂災害など風水害の危険を周知する防災教育を行う。
3. 公助、共助をめざし消防、地域、隣接施設等との協力体制を築いていく。
4. 年2回、夜間発生の大規模地震および火災を想定した避難訓練を実施する。
5. 備蓄品（非常用食品、防災用物品など）を購入したい。
6. 施設内の消毒、換気など感染症予防を徹底する。
7. 研修等で感染症対策に対する知識を高めるよう努める。
8. 入居者に対して情報提供すると共に、感染症対策に対する知識を向上させる。

《在宅サービス》

〔1〕麻機園ショートステイ

1. 年間を通して稼働率75パーセントを目指し、空床情報を提供することにより稼働率の向上を目指す。
2. 新規利用時は多くの情報を収集し、また、本人、家族の意向、身体状況について他職種との情報を共有することにより、よいサービスが提供できるようにする。
3. 利用中の状態変化時等は、家族及びケアマネジャーに迅速かつ的確に情報の提供を行い、対応する。
4. 施設内に感染症を持ち込まないように、利用前の本人及び家族の健康状態をより詳しく収集し、また本人、送迎車両の消毒を行う等感染対策を徹底する。

〔2〕麻機園デイサービスセンター

1. 平均利用者数12人をめざす
2. 居宅介護支援事業所を訪問し、新規利用者の紹介を依頼していきます。
3. バーチャルインデックスや長谷川式等のアセスメント指標を取り入れ、利用者の状態についての理解を深め、利用者一人ひとりに合わせた支援ができるようにしていきます。
4. 機能訓練や訓練機器・道具等を活用するなど、体操やレクリエーションに取り組んだ成果を利用者が実感し、意欲が増すように支援する。
5. 感染症対策として、送迎時に自宅での利用者の体調に関する情報を収集し、体調不良時の利用の可否を判断する。

〔3〕麻機園ヘルパーステーション

1. 利用者増を目指し利用者35人を目標にして、職員稼働率60%を目指す。
2. 住み慣れた家で安心して生活ができるよう支援し、利用者の「できること」を伸ばす支援をする。
3. 活動記録票を活用し、利用者家族に様子を伝える。
4. 感染予防を徹底すると共に、職員の知識・技術向上の機会を持ち、ニーズに的確に対応できるようにする。

〔4〕麻機園ケアプランサービス

1. 感染予防に努めながら医療や多職種との連携方法を工夫し、インフォーマルサービスも活用しながら利用者の自立支援を図る。
2. 利用者の多様なニーズに対応できるよう自己研摩に努め、幅広い知識をもつ。
3. 定期的に研修・会議を開催し利用者情報の共有、職員の資質向上を目指す。
4. 医療や他職種との連携を密にし、情報を共有する。
5. 今後AIの導入や書面のデジタル化が進むことが予想されるため、それに対応しうるスキルを身につける。